

ジルコニアの臨床応用

近年、クラウンブリッジやインプラント補綴治療におけるデジタル化が一気に加速し、中でもジルコニアの普及は著しいものがございます。弊社受注症例数の推移を見ても、過去わずか5年間でMBの占める割合は65%から15%まで減少し、現在では、残り85%を占めるオールセラミックの8~9割がフルジルコニアクラウンへと移り、私どももこの変化への対応に迫られている状況です。しかしながら、臨床上の咬合調整・接着・審美性といった点からジルコニアの臨床導入に慎重な先生方もいらっしゃると思います。

そこで、今回私どもが少しでもそのような先生方のお力になればと、毎年100症例近くのセラミック補綴治療を手がけられる中、昨年には、その8割にジルコニアを選択して頂き弊社臨床へのアドバイスを頂いている、福岡県ご開業の田中憲一先生のセミナーを開催する事になりました。ジルコニア臨床の最新情報をお届けするセミナーです。



[2] ジルコニア フルカントゥア クラウン

日時 平成30年 3月 17日 (土)
18:00~20:30
(受付 17:30~18:00)

会場 広島RCC文化センター (704)
広島市中区橋本町5-11

定員 30名 (対象: 歯科医師、医院スタッフ)

費用 無料



■ 田中 憲一先生

1997年 岩手医科大学歯学部卒業
2011年 田中歯科医院開業

- 所属・認定医等 -

日本顎咬合学会 指導医
日本口腔インプラント学会 会員
日本臨床歯周病学会 会員

北九州歯学研究会 会員、日本審美歯科協会 会員
Osseointegration Study Club of Japan 会員、JACD 会員
上田塾 会員、歯科臨床追求会白石組 会員

修復治療のマテリアルは、セラミックス、金属、レジン系に大別されます。それぞれ特性を有し、適材適所に用いることが良好な結果に繋がることは歯科臨床での実績から判断できます。そのことを踏まえた上で審美性や耐久性、生体親和性、さらには技工操作などを考慮しマテリアルを選択しますが、与えられた様々な条件(咬合状態等)の中で悩ましい思いをすることも少なくありません。特にセラミックスを使用した修復治療には、患者・術者両方にとって魅力的な要素が多く含まれる反面、強度の点では特に配慮が必要です。私の臨床においては、過去においてPFMクラウンを選択することが圧倒的に多かったのですが、現在ではオールセラミックスクラウンの選択が増えてきています。無論、従来から使用されてきたPFMクラウンは長い実績と安定感がありますが、二ケイ酸リチウム ($\text{Li}_2\text{O}_5\text{Si}_2$) や二酸化ジルコニウム (ZrO_2) を用いた修復物が近年頭角を顕にしてきました。今回は、これらの特性を抽出し一般的に選択基準とされることを確認しながら、症例を提示し私見を述べさせていただくことで、皆様の臨床の一助となれば幸いです。

お申込み・お問い合わせ

別紙**申込み用紙**に、必要事項をご記入頂き、**FAX**またはお電話にてお申込み下さい。

【株式会社 愛歯 広島営業所】

FAX 082-503-5841 TEL 082-503-5839